

インクル

第14号

財団法人 共用品推進機構

〒101-0064
東京都千代田区猿樂町
2-5-4 OGAビル 2階

"Incl." by The Kyoyo-Hin Foundation

目次 / Contents

- ・速報：ISO / TMB ロンドン会議報告
ISO / IECの最終投票で、「ガイド71」発効へ(星川安之)..... 2
- ・特集：共用品推進機構の新しい書籍、同時刊行(森川美和他)
『みんなで跳んだ』(小学館)と『バリアフリーと広告』(電通)..... 4
『改訂 新広告用語事典』に「共用品」など掲載..... 6
- ・特集：「きょうようひんってなんだろう展」開催(橋本英和他)
子供たちと一緒に「不便さと共用品」を考える..... 7
「国際福祉機器展」と「日韓フェスティバル」(浦安市)に出展..... 9
- ・キーワードで考える共用品講座
第14講 共用品と新聞報道(後藤芳一)..... 10
- ・ニュース&トピックス
[新製品]
日本ビクター、花王..... 11
スタジオジブリを訪問(森川美和)..... 12
[事務局長だより]..... 13
「Kyoyo-Hin」の広がり到手応え、
ソウル&ロンドン訪問記(星川安之)
- ・米国バリアフリー報告 共用品を支えるサービスとハート
第9回 障害児の個性に合わせた教育システム(草地美穂子)..... 14
- 『インクル』からのお願い / 奥付..... 16



(イラスト：牧内 智子)

速報 ISO/TMB ロンドン会議報告

ISO/IECの最終投票で、「ガイド71」発効へ!

ほしかわ やすゆき
星川 安之 ((財)共用品推進機構専務理事兼事務局長)

日本の提案によってISO / IEC (国際標準化機構 / 国際電気標準化機構) で作成作業が行われていた高齢者・障害者配慮設計指針「ガイド71」がよいよ今秋発効する。ISO / TMB (技術管理委員会) の最終会議が8月にロンドンで開かれ、圧倒的な賛成多数で正式に採択が決まった。同会議の様相と今後のわが国の対応などについて報告する。

8月23～24日の2日間、ロンドン郊外にある英国規格協会 (BSI) で、この委員会での最終会議が行われた。出席者は、日本から議長の菊地眞氏 (防衛医科大学教授 / 共用品推進機構評議員)、この議題の提案者でもある宮崎正浩氏 (新エネルギー・産業技術総合開発機構タイ所長)、共用品推進機構からは星川、高橋玲子の2名。その他、仏、加、スウェーデン、蘭、英、南アの各国委員、さらに欧州規格機関などからの委員が参加した。

菊地議長の挨拶で始まった1日目の会議の冒頭で、ISO事務局のティム・ハンコックス氏より、前回投票が行われなかったIEC (国際電気標準化機構) の投票が予定通り実施され、8月15日に締め切られた結果、「英国以外はすべてが賛成。よって、このガイドが正式にISO及びIEC共通のガイドとして発効される」旨が発表された。

英国の反対は「ガイドといえども、さらに詳細な記述があるべき」との理由からであったが、委員会で検討してきた結果、「ガイドの段階でこれ以上の詳細を入れ始めると、全体をカバーすることが困難になる」として、英国の要望に関しては、次の「セクターガイド」でカバーしていくことになった。

引き続き、ハンコックス氏から「ガイド71」発効までの以下の通りのスケジュールが発表された。

- ・～9月初旬：今回の会合結果を事務局でまとめ、

全委員に配布

- ・～9月中旬：委員の意見締め切り
- ・～9月末：事務処理を行った後に発効(ただし、事務処理の量によっては、10月以降にずれ込む可能性も大きい)

これ以降、「ガイド71」に関しての各国からの意見調整を2日間にわたって行った。主な論点と結論は、次のようなものであった。

- (1) マトリックス(7章)と説明のテキスト(8、9章)を入れ替えるべきとの意見が出たが(カナダなど)、前回のワシントン会議で規格作成者に利用しやすくするためにマトリックスを先にすることが合意されたはずとの反対意見(オランダ、英)があり、現状のままとなった。
- (2) マトリックスに「影」を入れる部分は、規格作成者が特に留意しなければならない重要点に限定し、かつ、なぜ影をつけてあるか、説明する文章が説明テキスト(8、9章)に記述されているべきであるとの指摘があった。このため、説明文章がなければ影を削除するか、または、新たに文章を追加する作業を行った。
- (3) ガイド案の内容を大きく変えるような意見は、今後の改正時に検討することとなった。

欧州規格機関、「分野別ガイド」を先行作成

2日目は、日本とフランスからの提案で、配慮事項を示すマトリックスの最終確認を行った後、欧州の規格作成機関であるCEN/CENELEC/ETSIから「セクターガイド」(分野別詳細指針)作成に関する以下のような状況が報告された。

- (1) CEN/CENELEC/ETSIは欧州委員会(EC)からの要請を受けていたこともあり、高齢者・障害者配慮に関する規格化をガイド文書の作成、

ガイドを実現するための仕組み、既存の規格の見直し の3点から進めることにしている。ただし、独自規格を作るよりも国際規格を優先する方針から、ISOの「ガイド71」作成に加わってきた。そのため、「ガイド71」が制定された後を追って、ほぼ同じ内容でCEN/CENELEC/ETSIでも正式に採択する計画でいる。

- (2) その後、「ガイド71」をベースにして、「セクターガイド」を作る計画である。すでにICT(日本で言うところのIT=情報技術)については、正式に「セクターガイド」の作成を決定している。
- (3) その他の分野のセクターガイド作成にあたっては、高齢者・障害者団体からのニーズを出してもらい、その中から優先順位を付け、どの分野から行うかを12月3日にミラノ(イタリア)で行うワークショップで決める意向である。

これに対して、各委員との間で次のような質疑応答があった。

Q : ISOとの関係はどうか? 将来ISOの規格にする計画はあるか? (カナダ)

A : その可能性はあるが、今は何も決定していない。(CEN/CENELEC)

Q : CEN/CENELEC/ETSIのセクターガイド作り、EU圏以外の国の参加は可能か? (日本)

A : 専門家としての参加は喜んで歓迎する。唯一の制約は会場の大きさから入れるかどうかだ。(同)

Q : ただ、その場合は最初から、やがてはISOのセクターガイドになることが前提となるのか? (日本/カナダ/英国)

A : 本TAG(テクニカル・アドバイザー・グループ)の意見として、過去3回ほどISO/TMBに対して、セクターガイド作成の必要性を報告したが、TMBメンバーの中での理解が得られていない。欧州ガイドが完成した後、同ガイドをISOガイドの案として投票にかけ、ISOガイドとすることは可能(ファースト・トラック)である。(ISO事務局)

Q : ISOのセクターガイド作成には非欧州国が最初から参加することが必要である。従って、欧州

規格ではなく、ISOとしてセクターガイドを作る必要がある。(全委員)

A : 欧州ガイドはまだ何も内容が決まっていないので、あせらずに考えてほしい。(CEN/CENELEC)

TMBに再度、本日出た意見を提案する。各国のメンバーからTMBに働きかけることが必要である。(ISO事務局)

日本から「セクターガイド案」を提示

前回の会議後、ISO事務局より問い合わせがあった「ISOとしてのセクターガイド(案)」を日本より報告した結果、ISO委員会内でセクターガイドを作る必要があるとの意見と合致し、大変強い関心を集め、また好意的に受け止められた。この日本からの案を今回の正式資料にしたい旨の提案があり、全員一致で合意された。

その後、「ガイド71」に関して各国からの残りの意見調整を行い、1998年5月にチュニス(チュニジア)でのISO消費者政策委員会(COPOLCO:コポルコ)総会での提案を第1ステップとして、約3年間に及ぶ委員会での検討作業という第2ステップが完了した。

閉会にあたり、菊地議長よりこれまで3年間の取り組みを振り返っての各委員へのお礼と共に、TMBの事務局として尽力されたティム・ハンコックス氏への謝辞が述べられた。参加メンバーからは議長はじめ全委員、事務局への拍手で閉幕となった。

閉幕時、BSIの女性メンバーから「ISOのセクターガイド作りでまたお会いしましょう」と一言メッセージが非公式にあった。

多くの方々のご尽力で、日本提案による新ISOガイドが完成した。大きな喜びを感じるのと共に、チームワークを誇りに思う。ただ、これは作業の一区切りであり、これからがむしろ本番である。

「ガイド71」のいわば実施細目に当たる「セクターガイド」の作成と実践、そして、それらの目的であるバリアフリー社会の実現と、これから先には多くの課題が待ち構えている。1つひとつ、楽しみながら、山道をさらに登っていきたいと思う。

特集 1 共用品推進機構の新刊書籍、同時刊行

教育現場で、ビジネス最前線で、社会の隅々で 新たに生まれる「心のコミュニケーション」

共用品推進機構が企画・編集・執筆した新刊書籍2点が9月上旬、ほぼ同時に刊行された。

小学館バリアフリーブックの最新刊『みんなで跳んだ』と、電通から出た『バリアフリーと広告』がそれ。

前者は運動会の大縄跳びを巡るある中学校の生徒たちと先生の物語。

後者は広告・宣伝活動を通して共用品ビジネスの最新動向を探ったビジネス書。

ジャンルも、内容も、全く異なる本ではあるが、2冊は共通した熱く太いテーマで貫かれている。

それは、共用品やバリアフリーの考え方が育む「心のコミュニケーション」。

少子・高齢社会に向けた、私たち共用品推進機構のメッセージである。

もりかわ みわ たかしま たけお
(森川 美和、高嶋 健夫)

『みんなで跳んだ』(小学館) ビデオの感動を新たに!

神奈川県小田原市のある中学校。運動会のクラス
対抗大縄跳びで、ひとりだけ跳べない子がいた。勝
つために彼を外すか、一緒に跳ぶか。

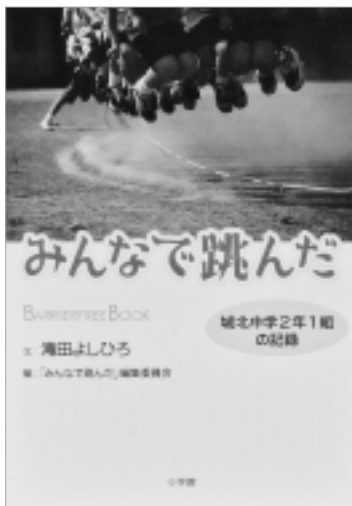
1997年11月29日、朝日新聞夕刊の「変換キー」
というコラム欄に、「みんなで跳んだ」の記事が載
った。書いたのは、当時社会部で教育問題などを担
当していた氏家真弓記者(現論説委員)だった。

それから2年後の1999年夏、共用品推進機構では

星川安之専務理事が中心となって「このコラムを映
像にしたい」と発案。花王情報作成センターの全面
協力を得て、約5分間のビデオ作品を創り上げ、そ
の年の11月に東京・銀座で開催した「共用品が開
く未来展」で上映した。

このビデオに対する反響は大きく、さらに翌2000
年1月、朝日新聞に改めてビデオを紹介する記事が
掲載されたところ、貸し出し希望が殺到、わずか10
日間で500件を超えるほどの大反響を呼んだ。

貸し出し希望は現在も続いており、累計件数は
1000件以上になり、学校、企業、一般家庭などさま



『みんなで跳んだ』

発行・小学館

「みんなで跳んだ」編集委員会・編/滝田よしひろ・文

四六判・160頁、本体価格1100円

【目次】 朝日新聞 変換キー

ドキュメント みんなで跳んだ

プロローグ

第1章 矢部ちゃんのいる2年1組

第2章 とともに生きることを学ぶ

第3章 矢部ちゃんと跳びたい!

第4章 みんなで跳んだ

矢部ちゃんのいた学年(柏木修)

ビデオになった「みんなで跳んだ」(星川安之)

それぞれの「みんなで跳んだ」

ビデオ版「みんなで跳んだ」ストーリー

9月21日晴れ……運動会前日

「大縄跳びで、彼を外すのはいやなんです」。ある中学校の運動会の前日。先生にクラスの一人が言ってきた。

長さ二十メートルほどの縄をクラス全員で跳び、合計回数を競う。でも、ぼくだけが跳べない。一人で、次に二人で練習した。みんなから声もかけてもらった。なお引っかけた。

一緒に跳ぶのが平等なのか。外すのが思いやりなのか。先生は迷いながら、彼を声かけ役にしていた。

みんなで放課後に話し合った。一人ずつ意見を言う。三十六人中「勝てなくなるから入れない」が十三人、「チームワークが大切だから一緒に」が十一人。後半にだけ入れる折衷案が出た。「ここで落ち着くか」と思った先生は採決した。

ところが、「反対」が二十三人。「彼には全部でないよりつらい」「みんながバラバラになってくのはイヤ」

さらに「跳びたくないの」って彼に聞いた。

「ぼくは跳びたい」

ばちばちと拍手が起きた。別の子が立つ。「勝ち負けなんて」。拍手が大きくなる。

「本音が。それでいいのか」。先生は涙声になってい

た。全員が「みんなで跳びたい」に手をあげた。

9月22日雨……順延

……あのとき「跳びたい」と言ってくれて、ホッとしました。もし「跳びたくない」といっていたら、こんな会議なんかできなかったと思うし……。

みんなの泣き顔、まだ頭の中から離れない。あっ、そうそう、先生の泣き顔、おかしかったな。先生、必死になって泣くのをやめようとして。あーゆー時は泣いていいのに。

9月23日晴れ……運動会当日

本番では、五クラス中のビリだった。それでも、彼は初めて続けて跳べた。友達と手をつないで、次は一人で、全部で七十一回跳んだ。

彼は後で作文に書いた。

「今日のぼくは絶好調でした。大縄では絶好調でした。ぼくには自信がありました。とびはねるほどうれいす」

心配でみんなの足元ばかり見ていた先生が、ほかの生徒の作文で知ったことがある。

「みんな、跳びながら泣いていました」

ざまな場所で上映されている。そこから推計すると、現在までに全国で約20万人もの方々にご覧いただいたことになる。共用品推進機構に届いた感想の多くはビデオの内容に共感するものであったが、それと共に多かったのが、「この話の背景がもっと知りたい」という声だった。

そこで、小学館第7編集部のご協力を得て、「みんなで跳んだ編集委員会」を編成し、バリアフリーブック・シリーズの新刊として出版する運びとなったものである。

本書では、まず巻頭で原作となった「変換キー」の記事を収録。続いて、『ドラえもん的車いすの本』でも漫画の原作を担当した作家・フリーランスライターたきたの滝田よしひろさんが新たに、この中学校であった出来事を魅力的なドキュメンタリーとして書き下ろしてくれた。ここには、生徒の自主性を尊重した「野外教室」、自分以外の誰かのことを真剣に考

えるきっかけとなった授業「薬害エイズ問題」、そして運動会競技種目「大縄跳び」などを通じて、バラバラだったクラスが1つになっていく姿がリアルに描かれている。

このほか、当時担任だったかしわざおさむ柏木修先生や星川専務理事のエッセイなども収録している。

新聞記事の感動、ビデオの感動が、数年の歳月を経て今また蘇る。新しいタイプのノベライゼーションブックの誕生である。

『バリアフリーと広告』(電通) 「新しい消費者との対話」を探る

本書は、「企業活動の鏡」とも言われる広告活動を1つの切り口として、共用品ビジネスの最前線を探ったユニークなビジネス書である。E&Cプロジェクトから続く共用品推進機構の活動実績を詳しく解説すると共に、「バリアフリー」あるいは「共用



バリアフリーと広告

[Kyoyo-Hin] そしてユニバーサルデザイン

発行・電通

共用品推進機構・編著

A5判・312頁、本体価格2600円

【目次】はじめに

第1章 超高齢時代の企業戦略としてのバリアフリー

第2章 広告戦略としてのバリアフリー

第3章 キーワードは「共用品・共用サービス」

第4章 共用品・共用サービスを創り出した人々

第5章 バリアフリー先進企業の取り組み

第6章 バリアフリーと新しい消費者コミュニケーション

第7章 バリアフリーと新しい商品・サービス展開

終章 2025年の市民生活と広告(あとがきに代えて)

巻末資料

品・共用サービス」、「ユニバーサルデザイン」といった考え方を、消費者との新しいコミュニケーション・ツールとして、実際のビジネス活動にどのように展開していくか。その際の着眼点や手法、企業戦略上の意義などを多角的に追跡・分析している。

編集に当たっては「ファクトファインディング」に徹して、各社のビジネス現場を取材。取材や資料提供にご協力いただいた企業・団体は50以上に達する。このため、広告業界最大手である電通広報室出版部から企画提案を受けてから約2年かかって、ようやく刊行にこぎ着けた。

収録したケーススタディーでは、まず先進企業の取り組み事例として、トミー、オリエンタルランド、松下電器産業、ソニーの4社の組織体制などを紹介している。

それに続いて、各社の広告活動、広報活動、マーケティング・マーチャンダイジング戦略などを詳細

に解説。新聞広告では、オリンパス光学工業と朝日新聞社による「スキャントーク」関連の共同広告をはじめ、ファンケル、ヤマト運輸、TOTO、ATCエイジレスセンターなどの実際の広告をそのまま掲載。同様に雑誌広告では、NTTドコモ、花王、ソニーなどの事例を収録している。

テレビCMについても、松下電器、松下電工、ファンケル、花王などの事例を、台本形式で写真付きで詳細に取り上げている。ラジオCMでは東芝と花王のユニークな事例を紹介している。

このほか、CDやテープなど「音声による商品カタログ・取扱説明書・広報誌」の事例、専用ブランドによる独自商品展開、通販カタログによるシリーズ展開の事例などにも触れている。

問い合わせ先：共用品推進機構

TEL：03-5280-0020、FAX：03-5280-2373

「共用品」「共用品推進機構」など収録

また1つ、「共用品」を収録した用語事典が登場した。『バリアフリーと広告』と同時に刊行された電通の『改訂 新広告用語事典』（亀井昭宏・監修/電通 広告用語事典プロジェクトチーム編、本体価格2800円）に、共用品・共用サービスの関連用語が新たに収録された。

本書は、1998年の旧版刊行から3年経過して、IT（情報技術）、地球環境、福祉などの分野を中心に約200

『改訂 新広告用語事典』（電通）に

語を追加した全面改訂版。共用品関連で収録されたのは、「共用品」「共用品推進機構」「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」の4語。

用語事典では、すでに『imidas2001』（集英社）『2001年版経済新語辞典』（日本経済新聞社）『朝日学習年鑑2001』（朝日新聞社）などに、「共用品」が取り上げられている。（高嶋 健夫）

特集 2

「きょうようひんってなんだろう展」

子供たちと一緒に「不便さと共用品」を考える

ATCエイジレスセンター(大阪)で開催

未来を担う子供たちに、素直な視点で「共用品・共用サービス」に触れてほしい。共用品推進機構とATCエイジレスセンターの共催による「きょうようひんってなんだろう展」が10月28日まで、大阪・南港の同センターで開かれている。共用品・共用サービスを開発した人や障害のある人から、子供たちに向けてメッセージを発信。それに対する返事を子供たち自身からもらい、バリアフリー社会の実現について、みんなで一緒に考えてみようと呼びかけている。
(橋本 英和、高嶋 健夫)

今回は夏休み中の8月12日にスタートしたこともあり、子供たちが楽しみながら共用品について考える展示を企画した。「不便さ体験とバリアフリー体験」コーナーを開設。視覚障害者、聴覚障害者、車いす使用者、高齢者のそれぞれについての「不便さ」を実際に体験できるようになっている。単なる疑似体験ではなく、E&Cプロジェクト以来の柔軟な発想による体験となっているのが特色。

具体的には、白いパッケージの缶や瓶(全盲) 透明なラップフィルムをまいたメガネをかける(弱視) 「吹き出し」の中のセリフを消した漫画(聴覚障害) いすに座って高いところと低いところのモノを取る(車いす使用) 手袋をはめて本をめくる(高齢者) の5つ。「不便さ」を考えるクイズ形式のパネルと、それらの不便さを解決する共用品を現物展示するコーナーも併設している。

もう1つの呼び物企画は、パネル展示された「子供たちへの手紙」。メッセージを寄せたのは、7人の大人たち。いずれも、それぞれの立場ややり方で共用品・共用サービスの普及に取り組んでいる共用品推進機構の賛助会員や支援者である。

コーナーの入り口には、「ここに来てくれたみんなに伝えてほしいと、メッセージを預かりました」

という「てがみ配達人」の言葉が掲げられている。

そして、出口には「みんなが考えたこと、思ったことを手紙に書いてみませんか? こんどはみんなが伝える番だよ」という呼び掛けと共に投函用の赤いポストを設置、子供たちからの返事を待っている。

「あなたが嬉しいと、私も嬉しい」 7人の大人から、子供たちへの手紙

掲示されている「子供たちへの手紙」を、『インクル』の読者にもお届けしよう。皆さんの返事はどんなものだろうか(掲載は氏名の五十音順、敬称略)。

私は、シャンプーや洗剤などのパッケージデザイナーです。パッケージというのは容器や箱や、袋のこと。いろいろな商品は全部パッケージに入っていますよね。私たちの生活にぜったい必要なものです。デザイナーの仕事は、パッケージの中身や開け方が少しでもわかりやすく、実際に使いやすくなるように形や見た目を工夫することです。

10年前に、私はシャンプーの入れ物にギザギザのマークを付けました。どうしてかというと、シャンプーとリンスの形が同じなので間違えてしまうという人のいることがわかったからです。ギザギザがついていれば、目が見えない人でも手でちょっとさわればどっちがシャンプーかわかります。目が見える人にとっても、頭を洗う時は目をつぶるのでギザギザがあると便利ですね。

このギザギザはとっても小さな工夫です。でも、使ってくれたお客さまからたくさんの「ありがとう」が届いたので、とってもうれしい思い出の仕事になりました。
(青木 誠)

やあ、君たち、夏休みを楽しんでいるかい。今日はちょっと変わった体験をしてみよう。

1. 片手をポケットに入れたまま、2時間過ごしてみよう。何をするにも片手です。片手でできる

ことと、両手でないとできないことがどれくらいあるだろうか。君にはなんでもないことが、超えられないハードルになっている彼もいる。だから、片手でも使える道具や商品は、体の不自由な彼にも、健康な君にも共に使いやすい「共用品」の一種だ。「共用品」が増えるほど世の中は楽しくなる。君も見つけて、どんな時役立つか見てみよう。

2. 昔の遊び「福笑い」をやってみよう。紙に大きな顔のりんかくを描く。別に、左右の眉毛、左右の目、鼻、歯が見える笑った口を切り抜き、目隠しして、顔の中に並べる。昔の遊びと違うのは、目隠しした君に、友達が時計の文字盤の、針の方向で目や鼻などの置く場所を教えることだ。「3時の方向」とか「9時の方向」とか。君は時計の文字盤をイメージして置く。これは目の見えない人に方向を教えるときに役立つ「共用サービス」だ。(佐藤 俊夫)

私は「弱視」です。見えるのだけれども、ふつうの人と同じようには見えません。

近眼の人がメガネをはずして遠くを見ると、景色がぼやけてしまいますよね。かんたんに言うと、そんな感じ。ただし、近眼の人はメガネをかければはっきり見えるようになりますが、弱視の人はメガネをかけてもダメ。「きょう正」できないのです。

そんな弱視の私が一番困るのは、「よく見えないこと」よりも、よく見えないことによって友だちやまわりの人たちに「誤解されてしまうこと」です。たとえば、道で友だちとすれちがったとしても、気づかずに通り過ぎてしまうことがあります。「ちえ、冷たいヤツ!」とか、「感じわるーい!」とか、かん違いされるのはとても悲しく、くやしいです。

でも、解決する方法はあるはず。よく見えない私



ひと味違う「不便さ体験コーナー」もある会場。

と見える君たち。お互いに注意と努力をしていけば……。どんな方法があるか、いっしょに考えてみませんか？ (高嶋 健夫)

私はいつも電動車椅子を使って外出しています。そんな時嬉しい出会いがけっこうあるのです。

この間も歩道で後ろから歩いて来た小学生が「らくちんでいいなー」と話しかけながら寄ってきました。一緒に並んで歩きながらプールの帰りでくたくたでお腹すいてる事などをおしゃべりしてくれました。ある銀行の前まで来たときに私は「この銀行に入りたいけど、段があってだめみたい。らくちんに歩けるけど困ることもあるんだよ」と言うと、その少年はしばらく考え込んで「僕が車椅子を押してあげるよ」と言ってくれました。「でも電動車椅子は重たくて無理」と言うとまた考え込んで「人を集めて手伝ってもらおうよ」と言ってくれたのです。

けっきょくは「段が無くて入れそうな銀行を探してみるからいいよ」と断り、ありがとうで別れました。彼はしきりと「なんで段があるんだろうなー」と独り言を言いながら立ち去って行きました。「自分とは違う人の事に興味を持ち、自分の事として考え、行動する事が大切」と言う事を私の嬉しい気持ちといっしょに伝えたいと思います。(高橋 秀子)

「聞こえない人にも聞こえる人と一緒に楽しめるコンサートを開きたい。音が聞こえなくても、手話を使えばきっとできる」

そう思い立った私は、さっそく歌に手話を付けることを始めました。すると意外なことに、聞こえない人だけでなく、聞こえる人からも嬉しい言葉をいただくようになりました。

「手話を付けた歌はわかりやすい。本当の山が見



赤いポストが子供たちからの返事を待っている。

「国際福祉機器展」と「日韓フェスティバル」(プサン市)に出展

(財)共用品推進機構は10月24～26日に東京・有明の東京ビッグサイトで開く「第28回国際福祉機器展(HCR)」に出展、続いて11月14～18日に韓国プサン市で開く「日韓フェスティバル」にも共用品の展示ブースを開設する。

HCRへの出展は3年連続で、ブースは3小間と過去最大になる。小間番号は「3-056」。共用品の現物やパネルを展示すると共に各種報告書などを販売する。ATCエイジレスセンターでの展示会に続き、子供たち

にも呼び掛ける展示を検討している。

一方、プサンでの「日韓フェスティバル」は日本貿易振興会(JETRO)が主催するもので、今年2月にソウルで開いた同フェスティバルに続いての開催。共用品推進機構は、ソウル展に日本生まれの共用品・共用サービスの考え方を紹介する独自ブースを設け、大きな反響を呼んだ。このため、ソウル展に続いて独自ブースを開設することになったもので、基本的にはソウルと同様の展示を行う予定だ。(高嶋 健夫)

えるようだし、トンボが飛んで、花が咲いているようだ。また手話ってもっと難しいことだと思っていたけど、知っている歌やゆっくりした歌は自分の手を動かしたくなる」という……。

私も手話は難しいと思っていた一人でしたが、覚えはじめると楽しく、思ったより簡単です。みなさんも知っている歌、大好きな歌で手話をはじめませんか？ みんなに歌で楽しく手話をおぼえてもらい、耳の不自由な人とも、楽しく手話で話せる人がふえるようにこれからも、手話と共に歌を歌い続けたいと思っています。(中原 啓子)

23年前、学生の時初めて、『重度身体障害児施設』に行き、「自分の身体や言葉が自分の思い通りにはならない子供たち」と会いました。子供たちは、話しかけると緊張し、身体や言葉が硬直してしまい、うまいコミュニケーションがとれませんでした。

その施設の保育さんが、「この子供たちが遊べるおもちゃが少なくて困っている」と言われたのがきっかけで、卒業してから「おもちゃ」の会社で働く事にしました。

障害児のおもちゃを研究・開発する新しい部署がその会社に作られ、障害児用のおもちゃをいくつか作り、子供たちに遊んでもらいました。でも本当は、みんなが望んでいる多くは、専用のおもちゃでなく、障害があってもなくても一緒に「遊べる」ものだと、子供たちとの「コミュニケーション」を通じて教わりました。

20年たった今、その「一緒に」はおもちゃ以外

にも広がり、「一緒に」使えるものが増えてきています。まだまだ、課題はたくさん残っています。ただ、解決に向けて「続けること」、そして、多くの人に「伝えること」が、唯一解決する方法と、実感しています。(星川 安之)

広い宇宙のたった一つの地球にはたくさんの人がいますね。子供にお年寄り、身体の不自由な人や妊婦さん。そして違う国の言葉を話す人達も。

みんなと一緒に生活する為には、何が大切なのでしょう？ 私は耳がきこえません。でも耳の聞こえる友人は沢山います。彼らは唇の形が読みやすいように、はっきりと、ほんの少しゆっくりと話してくれたり、筆談もします。紙がない時には地面に石で書いてくれたり、手話や身振りも使います。

大切なのは「伝えたい」というハートなのです。自分の気持ちが伝わるって嬉しい！ 相手の気持ちが伝わってくるって嬉しい！ みんながいっしょに嬉しい、楽しいというのが、共用品・共用サービスの考え方です。あなたが嬉しいと私も嬉しい。世界中のみんなが、そんなハートを大切にできたらとっても素敵だと思いませんか？ みんながいっしょに生きていく為に。(松森 果林)

会場：大阪市住之江区南港北のアジア太平洋トレードセンター(ATC)・ITM棟11階。最寄り駅はニュートラム「トレードセンター前」駅。開場時間は午前10時半～午後5時半、水曜休館。

問い合わせ先：ATCエイジレスセンター事務局

TEL：06-6615-5123 FAX：06-6615-5240

「共用品と新聞報道」

ごとう よしかず
後藤 芳一（個人賛助会員、日本福祉大学兼任講師）

社会的な関心の高さと普及度合いが報道への露出度に反映する。最近1年間（2000年9月～2001年8月）と3年前の同期間（1997年9月～1998年8月）に主要新聞に関連用語が登場した頻度を調べた。（小さい添え字は、同様の用語が「インクル」第1～13号の本欄に既出であることを示す）。

1. バリアフリー関連

共用品関連では、「バリアフリー」は397%に（3年前の年間1646件から最近1年間の6531件に）増えた。同様に「ユニバーサルデザイン」は178%（533 950件）、「共用品」は212%（17 36件）、「ユニバーサルファッション」は8894%（17 1512件）、「福祉車両」は167%（380 636件）、「移送サービス」は356%（108 385件）、「タウンモビリティ」は244%（32 78件）に増えた。いずれも2倍前後から数倍に急増している。

2. 福祉用具関連

関連分野として福祉用具（ハード）関連をみると、「福祉用具」は132%（1178 1550件）、「車いす」は155%（9099 1万4097件）、「介護用ベッド」は143%（118 169件）、「補聴器」は123%（350 429件）、「誘導ブロック」は145%（385 560件）と、おおむね1.5倍以内の増加となっている。

同様に、福祉用具（ソフト）関係では、「点字」は128%（1771 2267件）、「手話」は110%（3057 3360件）、「音声表示」は106%（190 202件）と、穏やかな伸びとなっている。「介助犬」は191%（867 1660件）で、内訳は「盲導犬」が149%（795 1183件）、「聴導犬」が240%（60 144件）で、後者の伸びが目立つ。

3. 共用品の周辺環境

高齢や障害関係の用語は、「高齢」は

131%（4万7323 6万2188件）、「障害」は132%（2万5645 3万3897件）、「リハビリテーション」は134%（4951 6653件）、「不便」は121%（3030 3673件）、「福祉」は138%（6万2912 8万6521件）、「自立」は133%（9470 1万2611件）、「人権」は120%（1万4494 1万7463件）であり、絶対数はともかく、伸び率は穏やかな水準にとどまった。

4. 他の社会的動向

参考までに、高齢・福祉と対比される分野や社会的関心の高い分野をみると、「環境」は104%（5万5257 5万7333件）、「情報」は214%（6万3718 13万6449件）、「雇用」は117%（8万3508 9万7764件）、「共生」は139%（5173 7209件）、「改革」は96%（7万2835 6万9862件）とおおむね穏やかな伸びにとどまり、バリアフリー用語の伸び率が際だつ結果となっている。

（注）タイトルと記事中に登場した回数の合計。検索対象は共同通信、一般紙（朝日、読売、毎日、産経）全国新聞網（北海道、河北、東京、中日、中国、西日本）地方紙（北海道、河北、北国・富山、中国、愛媛、高知、西日本、南日本、琉球新報）

「ユニバーサルデザイン」には「ユニバーサル・デザイン」と「UD」、「福祉車両」には「低床バス」「ノンステップバス」「リフト付バス」など、「移送サービス」には「ユニバーサルタクシー」「ハンディキャブ」「介護タクシー」「福祉タクシー」などを含む。同様に「ユニバーサルファッション」「タウンモビリティ」「福祉用具」「車いす」「介護用ベッド」「補聴器」「誘導ブロック」「音声表示」「介助犬」「高齢」「障害」「リハビリテーション」「環境」「情報」「雇用」も関連する用語を含む。このため、用語間の絶対数の比較に用いるには適さない。

● ニュース&トピックス

新製品

音と光で操作がわかるMDコンポ

日本ビクター、「声の取扱説明書」を無料提供

日本ビクターは「楽しいことはユニバーサル」をコンセプトにしたマイクロコンポーネントMDシステムの新製品「UX-F70MD」を発売した。短い報知音の組み合わせで現在時刻や録音・再生などの操作状態を知らせる新機能を搭載。表示色を自由に設定できる前面ディスプレイを使って操作状態を視覚的にわかるようにしたり、インテリアとして楽しむこともできる。

最大の特徴は、報知音（ピープ音）によるさまざまなお知らせ機能。現在時刻については、例えば「13時11分」なら、「ピッ・ピッピッピッ・ピッ・ピッ」といった具合に知らせる。また、MDのプログラム録音、同再生、タイマー予約などについても、

数種類の報知音によって操作をガイドする新しい機能が付いている。

ポディーカラーはホワイト、ベージュ、シルバーの3色。オープン価格。

同社では、これらの機能を説明した視覚障害者向けの「声の取扱説明書」（カセットテープ版、デジ規格CD-ROM版）を希望者に送料無料で提供している。また、ホームページ（<http://www.jvc-victor.co.jp>）からはテキストデータをダウンロードすることもできる。

（高嶋 健夫）

問い合わせ先：日本ビクター(株)お客様相談センター
東京(TEL：03-5684-9311)

大阪(TEL：06-6765-4161)

製品別、場面別に貼る10種類の点字シール

花王、視覚障害者向けに無料提供

花王は視覚障害者向けに10種類の点字シールを無料提供する新しいサービスを開始した。

提供しているのは透明フィルムの点字シールで、同じ内容が墨字（26ポイント・ゴシック体）でも印刷されている。種類は「全身洗淨料」「シャンプー」「リンス」「洗顔」「メイク落とし」「ハミガキ」「トイレ」「お風呂」「キッチン」「塩素系」。

標準的な使い方は 区別しにくい容器や詰め替え容器に貼る（リンス、洗顔、ハミガキなど） 使う場面ごとに貼る（トイレ、お風呂など） 取り扱

い注意のものに貼る（塩素系） となっている。

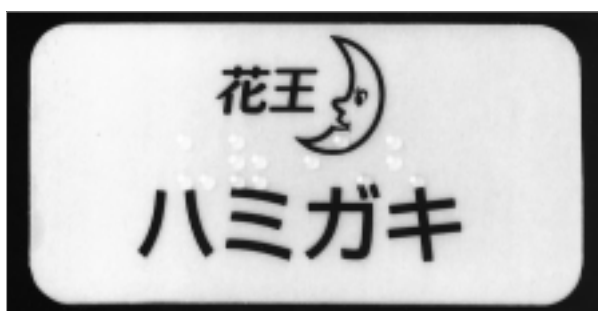
同社では視覚障害者向けに、音声で同社製品を紹介するデジ規格CD-ROMを制作しているが、第3版となる「商品と暮らしの花王ボイスガイド2001年版」が完成、こちらについても無料提供を始めている。

（高嶋 健夫）

問い合わせ・申し込み先：

花王(株)広報センター社会関連グループ

TEL：03-3660-7057 FAX：03-3660-7994



● ニュース&トピックス

新製品

みやざきはやお

宮崎駿アニメが「日本語字幕付きDVD」に

憧れの「スタジオジブリ」を訪問!

東京・小金井市にある「スタジオジブリ」。JR中央線「東小金井」駅の改札を抜け、憧れのスタジオを目指して歩き始めると、まるで『となりのトトロ』の舞台のような武蔵野の緑をぬって、細い路地があちこちに延びている。「近道していこうか」と言いたくなるような小径に入り込む。そこはもうジブリワールドだ。スタジオジブリは、そんな風景に溶け込むように建っていた。玄関でおなじみの「大トトロ」と、広報担当課長の西岡純一にしおかじゅんいちさんが出迎えてくれた。

「これ、昨日こちらを訪れたファンの方がくださったお礼の手紙なんですよ」。西岡さんが差し出した手紙の主は、聴覚障害者の女の子からのものだ。

「前に『ジブリ作品を聴覚障害者も楽しむことはできないか』と問い合わせを受けていました。それで、お返事を差し上げたところ、わざわざ

ここまで足を運んでくださったんです」と西岡さん。読ませていただいたその文面には、ジブリ作品を自分も楽しめたという嬉しさが溢れていた。

「でも、皆さんに満足していただく作品に仕上げるのは本当に大変です。すべてのセリフをそのまま字幕にすると、字ばかりになってしまう。と言って、簡単にわかりやすくまとめてしまうと、イメージが変わってしまう」と、今後の作品に対する課題もあるようだ。

6月初旬に発売されたDVD（デジタル多用途ディスク）版の『魔女の宅急便』（発売元・ブエナ・ビ

スタ・ホーム・エンタテインメント、税別価格4700円）には、日本語の字幕メニューが付いている。DVDならではの機能を生かした日本映画としては異例の「共用サービス」であり、これによって聴覚障害者も一緒に楽しめるようになった。

「ジブリがいっぱいコレクション」DVDシリーズとしては、今年3月に『ルパン三世 カリオストロの城』（同、4700円）がすでに発売されており、『魔

女の宅急便』に続いて、9月28日には『となりのトトロ』（同、4700円）も出る。いずれも、日本語と英語の音声・字幕が付いており、今後発売される同シリーズのジブリ作品すべてに同様の音声・字幕メニューが設けられる。さらに、1997年公開の『もののけ姫』に関しては、劇場公開された実に8カ国語版が収録された特典ディスクが付き、2001年11月に発売される（同4700円）。



『ルパン三世 カリオストロの城』
(©モンキー・パンチ / TMS・NTV)



『魔女の宅急便』
(©角野栄子・二馬力・徳間書店)

「聴覚に障害のある人にも、外国の人にも、できるだけ多くの方々に、ジブリ作品を楽しんでもらうために、当たり前のことをしていこうと思っています。まずはできることから」と、最後に西岡さんは結んだ。

最近では、DVDに限らず、劇場公開時点で日本語字幕入り版が巡回公開され、みんなで楽しめる機会が増えている。宮崎駿監督作品をはじめとするジブリのアニメ作品は小さな子供から大人まで誰もが楽しめ、さりげなく、しかし、しっかりとした配慮が随所に盛り込まれていると思う。今後のジブリ作品にも注目したい。
(森川 美和)

「Kyoyo-Hin」の広がり 手応え ソウル&ロンドン訪問記

.....この2カ月の間にソウル、ロンドンを訪問した。

ソウルには、今年2月に日本貿易振興会（JETRO）主催による「日韓フェスティバル」の「Kyoyo-Hin」コーナーが来場者の関心と呼んだと聞き、一度その文化に触れたいと思い、7月半ば、土・日を利用して訪れた。

訪問したその日は、台風が直撃する最悪のタイミングだったにもかかわらず、東大門、南大門の市場は、朝の5時まで親子連れ、カップル、買い付け業者などがひっきりなしに訪れ、凄い活気に満ち溢れていた。

数多く見受けられるコンビニ店には、商品構成は日本とよく似ているが、市民のニーズにあったと思われるモノが所狭しと並んでいる。その中には、韓国製の「側面にギザギザの付いたシャンプー容器」「点字表示付きの缶・瓶ビール」「半円の切り欠きの付いたテレホンカード」が陳列されていた。

東京・秋葉原の電気街を思い起こさせる「竜山電子商店街」では、おびただしい数の店が、それぞれの得意分野の「通信機器」「家電」「パソコン」「AV関連製品」を扱っている。その中に、韓国製の「点字表示付き洗濯機」や「凸表示の付いた炊飯器」

も新製品として並んでいた。その他にも、ソウル一大きな書店「教文文庫」では、学習書が多くを占める児童コーナーに「障害」を理解するための本が最近少しずつ並びだしたと、店員さんから聞いた。

活気溢れるソウルに共用品があることに非常に大きな喜びを覚えたのが、3日間市内を歩く中で、車いす使用者、白杖をついている人を見かけることはできなかった。

.....8月半ば、ISO「ガイド71」会議出席のため、今度はロンドンを訪れた。ちょうど10年前、日本玩具協会が提案した「共遊玩具」を、英国玩具協会が英国王立盲人協会（RNIB）と共同で事業化すると記者発表した「英国玩具見本市」を訪れて以来2度目の訪英である。

今回も、まずRNIB本部を訪問。10年前始まった共遊玩具の普及活動が着実に発展し継続されていることを、最新の「おもちゃのカタログ」によって知る。改めて感謝の気持ちで一杯になった。RNIBの盲人用具開発責任者の話では、いわゆる専用器具に関する開発は年々減っており、その反面、一般製品を開発販売する企業からのデザイン依頼が増えているという。共用品推進機構の話をする、大変興味を持ち、今後さらにコミュニケーションを行っていくことを約束した。

.....ロンドンの街は概して段差が少なく、車いす使用者でも比較的動

きやすいのではと思われた。同行した高橋玲子さんはロンドンに初めてであったが、白い杖をつきながら地下鉄を乗り継ぎ、知り合いの家に1人で出向いた。その間、代わるがわる「どこに行くのか?」と声をかけられ、代わるがわる「手引き」を申し込まれ、「50センチも1人で歩かなかった」と嬉しそうに話していた。

ロンドンの地下鉄に乗り、周りを見渡すと、さまざまな人種の人が自然に共生しているのに気づく。お互いが普段は「干渉せず」、何か困っていそうな人がいると、その「干渉せず」が突然「OFF」になるのも興味深い。

市内のキングスロードの一角にある「L'OCCITANEの店」は、フランス・プロバンス地方にある香りに関する製品を作っている企業の出店。高橋さんとその店に立ち寄ったところ、香水、シャンプー、ロウソクなど、すべてのパッケージに、点字で製品の種類と製品名が表示されている。店員さんに聞くと、プロバンスには盲学校があり、卒業生がこの会社に就職、15年前から点字表示が始まったと説明してくれた。

一歩外に出ただけで、こんな楽しい情報が得られた。「ガイド71」が完成した今、今後の課題は多くの国の状況をより多くの国で共有化していくことと、改めて切に思った次第である。

()



共用品を支えるサービスとハート

障害児の個性に合わせた教育システム



くさち みほこ 草地 美穂子 (在サンフランシスコ、障害リハビリテーションカウンセラー)

前回に引き続き、「フル・インクルージョン」がテーマ。その実現と促進のために、教育の現場ではどのような努力がなされているかを報告する。

米国で教育に関わる者が頻繁に口にする言葉に、「リスト・リストラクティブ・エンバイロメント」(Least Restrictive Environment) というのがある。「制限(つまりバリア)の最も少ない(教育)環境」という意味で、障害のある生徒でも可能な限り普通教育に近い環境で教育を受けるのが望ましいという思想である。が、その「教育環境」は必ずしも初めから整っているわけではない。親や教育者が話し合い、障害児の個性を多角的に査定しながらその子に最適な教育プログラムを創り上げていく。だから当地には養護学校のような包括的単独隔離システムは存在しない(実際にはろう学校などが少数ある)

現在カリフォルニア州で行われている特殊教育プログラムを別表に掲げた。前回の就職支援プログラムと同様、ここに示したA~Eはレベルというより各障害生徒の個性に合わせた区別である。

AからEへいくに従い、インクルージョンの度合いが高まる。また、B~Eの特殊学級には、混在学級(精神発達遅滞が共通項、障害の条件はなし)

ろう・難聴学級(手話学級)、盲・弱視学級、言語発達遅滞学級、肢体不自由学級、情緒・行動障害学級、重複障害学級、自閉症学級、学習障害学級、脳障害学級 などがある。

B~Eでは普通校の一部の教室を使うので、休み時間にトイレに行ったり、食堂に行ったりする途中の廊下や校庭で、自然に健常生徒との交流が生まれる。A~Eのどのクラスになるかの判断は必ずしも障害の軽重や種類によらない。たとえ障害自体は重いほうでも、親の希望と専門家の判断で普通学級が妥当とされればEになることもある。普通学級で障害生徒が健常生徒と一緒に教育を受けるために必要になるアコモデーション(障害補償=前号参照)を都合し、実際に生徒の役に立てばバリアフリー教育の成立である。

希望の学級や、例えば片腕でも打てるコンピューターキーボード、マンツーマン補助教師といったアコモデーションを要求したり、現行教育プログラムが障害生徒に適切かどうかをチェックするために、最低年1度の関係者会議が開かれる。親、教師はもとより、障害生徒の教育に関わるすべての専門家が出席する(中学生以上で本人や親の希望があれば、障害生徒自身も参加できる)

筆者もソーシャルワーカーとしてこれまでもい

■特殊教育(Special Education)の主な形態

A	在宅教育 (In-Home Program)	親や家族が教師役となり、生徒の家で教育するシステムと、専門家(例: 自閉症児のための有資格専門トレーナー)が家庭訪問をして特別プログラムを行うシステムがある。
B	在宅教育 + 特殊学級	週の何日かを家で(内容はAに同じ)、残りを学校(CかD)で過ごすプログラム。
C	特殊学級I (Special Day Class I)	障害生徒のみで構成される特別教室ですべての授業を行う。
D	特殊学級II (Special Day Class II)	基礎学科は障害生徒のみで構成されるが、一部(体育、芸術、休み時間)は健常生徒と共に行う。
E	普通学級 (Full Inclusion Class)	普通学級に在籍し健常生徒と共に学ぶ。生徒の障害を補うためにさまざまな工夫がとられる。

障害児の成長を支えるセラピー(療法)プログラム(写真提供:ジェリー・マークリー)

ジャクソン・マークリー君(7歳)は重い自閉症があり、言語治療を中心とする特殊学級に通う。毎日の学級のほかに、言語療法、作業療法、音楽療法、自閉症専門プログラムを受けている。「このようなさまざまなセラピーがなかったら、息子はここまで伸びなかったでしょう」と、母親のジュリーさん。

近年は州教育福祉予算の不足などから、割高な療法プログラムが認められないことも多い。ジャクソン君の療法費も半分近くは両親の負担である。それでも、



さらなる成果を信じて、近く乗馬療法も始める予定だ。

写真左は作業療法の一例。ボールの中に寝転がることによって、身体のすみずみの感覚を強める効果がある。同中は、ジャクソン君がジュリーさんから作業療法の訓練を受けているところ。鉛筆の正しい持ち方と運筆を習っている。米国では療法専門家が親と協力してセラピーの効果を高める。同右は、犬の散歩に出かけるジャクソン君。セラピーを受ける以前は落ち着きが全くなく、動物の世話などはできなかった。セラピーの成果を示している。

くつかの会議に出席した。最も興味深かったのは、小児まひで肢体不自由のタイラー君(7歳)の会議。普通学級(別表E)で唯一の障害児童である彼の会議に出席した関係者は10人以上。生徒の母親、担任教師、学校心理学者、体育教師、養護教諭、理学療法士、作業療法士、言語療法士、学校区の責任者、新年度に進学する学校の関係者らがいた。

Bプログラムに通う自閉症のジーン君の会議には、これらに加えて自閉症専門ホームプログラムのトレーナーと心理学者も参加していた。英語以外の言語(手話を含む)を母国語とする親のためには通訳も列席する。

この会議開催は「障害者教育法」(Individuals with Disabilities Education Act)で義務づけられており、障害生徒の現在の学力レベル、長所・伸ばすべき点、1年後に到達すべきレベルと四半期ごとの学習・活動目標、目標達成に必要なアコモデーションと特別教育サービス(例:言語・理学・作業療法)などが討議され、内容は正式な文書に記録される。障害者教育法は1975年に制定された連邦

法で、「フル・インクルージョン」教育最大の牽引車であり、「リスト・リストラクティブ・エンバイロメント」もこの法律が生みの親である。

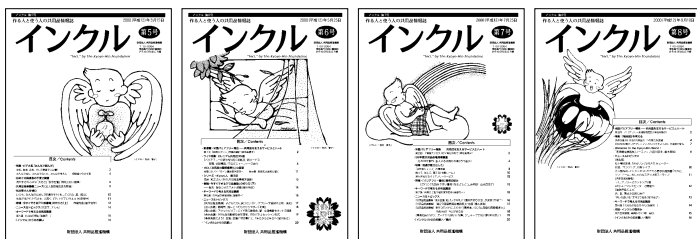
親が決定事項に不満であれば会議延長となる。とはいえ、親の納得がいくまで何度でも会議が開かれるので、その度にかかり出される関係者には頭の痛い話だ(出席者が多かったり議論が白熱したりして、1回の会議で3時間以上かかることもざら)。

だが、これも障害生徒に最善の教育を提供するための必須過程なのである。最近、ホームプログラムの時間数が少ないことに不満なことから、最初の会議で署名をしなかった父母があった。学校側に討議続行を要求した結果、2度目の会議では妥協案が出て参加者一同ほっとしたのを覚えている。

「(法によって)与えられた権利を最大限に生かし、何年かかってもこの子のために最善の教育を勝ち取ります」とはある障害児の母親の弁。普通学級に通う障害のある娘のために弁護士まで雇った。バリアフリー教育は苦勞と辛抱なくしては生まれないことを示すほんの一例である。



創刊号 1999年7月 第2号 1999年9月 第3号 1999年11月 第4号 2000年1月



第5号 2000年3月 第6号 2000年5月 第7号 2000年7月 第8号 2000年9月



第9号 2000年11月 第10号 2001年1月 第11号 2001年3月 第12号 2001年5月



第13号
2001年7月

賛助会員募集とバックナンバーのご案内

作る人と使う人をつなぐ共用品情報誌『インクル』は、(財)共用品推進機構の機関誌です。『インクル』は隔月刊で発行し、個人・法人賛助会員の皆様に郵送でお届けしています。共用品推進機構では引き続き、『インクル』を定期ご購入いただける個人・法人賛助会員を募集しています。年会費は、個人が1人1万2000円、法人が1口20万円。入会申し込み・お問い合わせは、下記の事務局までお願いいたします。

また、『インクル』のバックナンバーはどなたでもご購入いただけます。ご希望の方は、機構事務局までお問い合わせ下さい。一般頒価は1部1000円です。

機構関係書籍・自主刊行物のご案内

(財)共用品推進機構では『共用品白書』、『共用品展示リスト』、『各種『不便さ報告書』』などの自主刊行物を販売しています。刊行物の一覧と概要は機構ホームページに掲載しており、サイト上から直接申し込むことができます。

また、出版社から刊行されている機構関係の一般書籍についても、オンライン書店「bk1」にリンクする形で機構ホームページから直接購入することができます。

ご希望の方は、<http://kyoyohin.org/>にアクセスしてください。

作る人と使う人の共用品情報誌

インクル 第14号

2001(平成13)年9月25日発行
"Incl." vol.3 no.14

©The Kyoyo-Hin Foundation, 2001

隔月刊、奇数月に発行

一般頒価 1部1000円

(但し、個人・法人賛助会員については、購読料は年会費の中に含まれています)

視覚障害のある方など、墨字版がご利用できない方にはTXTファイルのフロッピーディスクを提供しています。必要のある方は、事務局まで申し出ください。

編集・発行 (財)共用品推進機構

郵便番号 101-0064

東京都千代田区猿樂町2-5-4 OGAビル2F

電話：03-5280-0020

ファクス：03-5280-2373

Eメール：jimukyoku@kyoyohin.org

ホームページURL：http://kyoyohin.org/

発行人 鴨志田厚子

事務局 星川 安之

万代 善久

森川 美和

橋本 英和

編集長 高嶋 健夫

執筆・協力 草地美穂子

(五十音順) 小塚 通宏

後藤 芳一

牧内 智子

山本 明彦

制作 日経BPクリエイティブ

印刷・製本 光写真印刷(株)

本誌の全部または一部を視覚障害者やこのままの形では利用できない方々のために、非営利の目的で点訳、音訳、拡大複写することを承認いたします。その場合は、(財)共用品推進機構までご連絡ください。

上記以外の目的で、無断で複写複製することは著作権者の権利侵害になります。